

第六三回定例研究会

城 と 上 下 水

八木技術士事務所代表

元（公財）廃棄物・3R研究財団専務理事 八木美雄

私は、厚生省、環境庁（現厚生労働省、環境省）に勤務し、水道、廃棄物、環境行政に従事しました。現在は、廃棄物リサイクル関連の仕事をしていますが、社会人の第一歩が水道関連でしたので、水道への思い入れもかなり強く残っています。

また、一般廃棄物であるし尿処理そして合併処理浄化槽の業務を通じて間接的に下水道にも触れる機会がありました。

そんなことで、長年の趣味である城歩きをしていても、水の確保や汚物処理のことがいつも気にかかります。

以下、城探訪について、城について、城と上

下水について触れ、最後に城探訪の楽しみについて記すこととします。

1. 城探訪について

(1) 城探訪のきっかけ

二五年前の平成二年（一九九〇）、多摩に転居しました。その年が、たまたま八王子城落城四百年にあたり、八王子市では城跡一帯を整備していました。

当時、城と言えば、天守が聳えるイメージしかありませんでしたが、八王子城址を訪ねビックリしました。天守はないものの、全山の要所に曲輪、水平道、大きな堀切や崩れた石垣、そ

して本丸には井戸が残る巨大な山城、それが八王子城でした。誰が、何のために、こんな大きな城を山中に築いたのかと、疑問は次々に湧き、眠っていた歴史好きが起き上がってきました。調べてみると、全国には数万を数える城址があり、八王子城がきっかけで、歴史に直接触れることのできる城探訪にすっかり魅せられてしまいました。

(2) 百名城

平成一八年二月、財団法人日本城郭協会から「日本百名城」が選定・公表されました。

「百名城」が発表された時点で、改めて城探訪記録をチェックしてみると、八〇城ほどしか訪ねていませんでした。それから、城マニアとして百名城に焦点を当てつつ、城探訪を続けてきました。

小平市ふれあい下水道館で講話した直後の平成二七年十一月、千早城（大阪府）を訪ね、百名城を踏破できました。もともと、大急ぎで



百名城、竹田城（兵庫県朝来市、2010.9）

の神風・城探訪が多いのも事実なので、これからは再度の百名城に加えて各地の城や城下町をじっくりと訪ね歩きたいと思っ

2. 城について

前置きが長くなりました。本題の城に移りましょう。

「城」という字は、「土」と「成」から構成されています。その名の通り、城は、土を盛って土塁を築き、土を盛るために掘った部分が堀（濠）になりました。



百名城・国宝・松江城（2013.6）

集落から国単位の防御拠点として全国に大合わせて数万存在すると言われています。ここで、城の華である天守は、キリスト教の天主、仏教の帝釈天の天主などに由来するとされ、神社仏閣の楼閣建築からの連想で明治になつてから天守閣とも呼ばれるようになりました。

明治四年（一八七二）の廃藩置県によって明

すなわち、城とは、堀と土塁で囲まれ外的から身を守るための構造のこのとで、

治新政府は、明治六年（一八七三）、廃城令を公布して、城の破却を進めた結果、多くの城の建造物は破却され、さらに、太平洋戦争時の米軍の大空襲によって失われ、現在、江戸時代から現存する天守は、弘前城（青森県）、松本城（長野県）、犬山城（愛知県）、丸岡城（福井県）、彦根城（滋賀県）、姫路城（兵庫県）、備前松山城（岡山県）、松江城（島根県）、宇和島城（愛媛県）、松山城（愛媛県）、丸亀城（香川県）、高知城（高知県）のわずかに一二しかありません。ちなみに、松本、犬山、彦根、姫路、松江の五城は国宝、その他は重要文化財となっています。

なお、天守は、統治の象徴として、城下町中心部の領民が望める高所などに多く築かれました。ですから、現在でも築造されれば観光の目玉そして地域のランド・マークとして十分通用することになります。ということ、現在、復元天守一四（築城資料をもとに忠実に再建されたもの）、復興天守一四（天守が存在したこ

とは歴史的事実だが、築城資料がなく不完全な(再建)、模擬天守五一(天守の存在そのものが疑問視されているもの)の合計七九天守が、全国各地に建造されています。

3. 城と上下水

(1) 上水

日常生活に加えて籠城のため、城には、井戸が備えられていました。

特に、山上に築かれた山城では、水の確保が生死を決することになります。そのため、水手曲輪として厳重に防備されるとともに、水源が枯れないように、尾根の掘切や樹木伐採が厳しく規制されていました。

さて、徳川家康によって天下が統一されると、三百余の大名は、領内統治に便利な地に城を構える(山城↓平城)とともに、城下町に水を供給するために、都市施設としての上水(江戸の玉川上水、金沢の辰巳用水など)を整備しました。

掛川城、本丸の霧吹井戸*

* 深さ45m、日本第三位の深さといわれている。



なお、多くの城は、城下町の中心部の高台に築かれましたので、現在、本丸跡に配水池が築造されることがあります(大阪城、和歌山城など)。

大阪城・本丸内堀(空堀)、大阪市水道局の送配水管



(2) 下水

下水は、雨水と汚水から成ります。

雨水に関しては、城郭の中でも、特に石垣は排水を怠ると水圧によって崩壊を早める恐れ

がありましたから、背面に栗石を込め、排水用の樋を設置したりしていました。

低平地の城下町の街づくりの一環で、内水排除のため、江戸の本所(墨田区)では、竪川、大横川、十間川が開削され、さらに南割下水、北割下水も設けられました。なお、城防備の要である水濠では、城下町の雨水排除機能も有し、舟運の利便性からも定期的な泥浚えが行われていました。

汚水については、城郭には、常設のトイレはなく移動式のおまる(雪隠)が利用されていたようです。往時、汚水の大部分を占める糞尿は肥料として活用されたことが遠因にあったのかもしれません。

なお、戦国時代の籠城戦では、ヒトばかりでなく軍馬が排出する糞尿によって城内の衛生状態の悪化(糞詰まり)を招きました。小田原北条氏が浜居場城(箱根山中)の城掟で、「人馬の糞水、毎日場外へ取出し、いかにも綺麗に致すべし、但し、城一矢の内に置くべからず、

遠所へ捨る事」と規定しています。ここで、城一矢とは遠的とすれば約六〇mですから、大変な労力を必要としました。

4 おわりに―城探訪の楽しみ

最後に、城マニアとして城探訪の面白さを、四点ほど挙げたいと思います。

○知らない土地を歩く・ウォーキング

城探訪は歩くことが一番です。見ず知らずの土地を実際に歩き、土地の起伏や山河などに直に触れると、日常生活を離れ新鮮な気分になります。旅の途中、一カ所でも城歩きを加えると、旅がもっと楽しくそして奥行きのあるものになります。

○ハイキングの要素

城址は自然公園として整備されていることが多く、ハイキングしながら草花、野鳥など自然観察も楽しめます。なお、山稜に埋もれている古城址の場合には、山道を安全に登るため、ハイキングシューズや長袖のシャツの着用な

どを心掛ける必要があります。

○歴史上の人物への変身願望

信長など戦国武将ゆかりの城々を訪ね、大袈裟ですが、栄枯盛衰の人生を疑似体験できます。変身願望が満たされるからかもしれません。城址を訪ねて、信玄、謙信、秀吉、家康など歴史上の人物に変身するのも一興です。

○山海の珍味を味わう!?

宮仕えの合間の城探訪でしたから、早朝から日暮れまで歩き続け、ビジネスホテルに着くと食事を済ませ早目に寝るといふパターンを繰り返してきました。振り返れば、城址は全国至る所にあり、山海の珍味を楽しむことができました。これからは、ネットでグルメ情報を下調べしてから、城探訪に出かけなくてはと自戒しています。

(二〇一五年一月八日、小平市ふれあい下水道館にて。なお、本文は講演者自らが再構成したものです。)